

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	腎癌・腎腫瘍の臨床病理学的検討とゲノム病理データベース構築
研究責任者	新潟大学医学部臨床病理学 准教授 大橋瑠子 (当院研究責任医師:病理診断科 部長 大月寛郎)
研究実施体制	研究責任者:新潟大学医学部臨床病理学 准教授 大橋瑠子 研究分担者: 新潟大学医学部臨床病理学 教授 味岡洋一 同 助教 高村佳緒里 同 助教 谷優佑 同 超域特任助教 Annenkov Alexey 新潟大学医歯学総合病院 病理部 准教授 梅津哉 同 特任助教 加藤卓 同 医員 近藤修平 同 医員 田口貴博 新潟大学歯学部口腔病理学 助教 阿部達也 新潟大学医学部泌尿器科学 教授 富田善彦 同 助教 田崎正行 同 助教 山名一寿 同 助教 石崎文雄 新潟大学医学部腎膠原病内科学 同 教授 成田一衛 同 准教授 山本卓 同 特任助教 大塚忠司 同 医員 渡辺博文 新潟大学医学部放射線医学 教授 石川浩志 同 講師 山崎元彦 同 助教 佐藤卓 新潟大学医学部小児外科 教授 木下義晶 同 助教 荒井勇樹 新潟大学医学部小児科学 准教授 今井千速 同 講師 今村勝 共同研究機関: 新潟県立がんセンター新潟病院、 聖隷浜松病院 、岐阜大学医学部附属病院、愛知医科

	<p>大学病院、関西医科大学附属病院、旭川医科大学病院、東京女子医科大学病院、東北大学病院、弘前大学医学部附属病院、山形大学医学部附属病院、秋田大学医学部附属病院、福島県立医科大学附属病院、和歌山県立医科大学、静岡県立総合病院、徳島大学病院、浜松医療センター、神奈川県立がんセンター、獨協医科大学病院、神戸市立医療センター中央市民病院、加古川中央市民病院、堺市立総合医療センター、独立行政法人国立病院機構埼玉病院、中部国際医療センター、兵庫県立がんセンター、熊本大学病院、伊勢崎市民病院、独立行政法人国立病院機構横浜医療センター、JA 三重厚生連鈴鹿中央総合病院、新潟県立中央病院、鶴岡市立荘内病院、医療法人防治会きんろう病院、大阪国際がんセンター、新潟市民病院、立川総合病院、高知赤十字病院、岩手医科大学附属病院、長岡赤十字病院、新潟県立新発田病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、岐阜県総合医療センター、八尾徳洲会総合病院、チューリッヒ大学病院、ヴェローナ大学病院、フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン=ニュルンベルク、ミュンヘン工科大学、プラハ・カレル大学プルゼニ校大学病院、ヒューストンメソジスト病院</p>
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2027年3月31日まで
対象者	2001年1月1日以降に当院で診療を受けた腎癌の患者様
研究の意義・目的	<p>腎癌はヒトのがんのおよそ3%を占め、その発症率は年々増加傾向にあります。腎癌の組織型では淡明細胞型腎細胞癌と呼ばれるタイプの癌が最も頻度が高く70-80%を占めますが、それ以外のタイプの癌は稀なためにその臨床病理学的特徴や遺伝子学的特徴、予後について未だ十分に解析されていないのが現状です。単施設での経験症例数は限られていますのでさらなる検討をすすめるため、本研究では新潟県内の基幹病院および日本全国・海外の腎癌診療中核病院と協力してさまざまな腎癌・腎腫瘍の臨床病理学的・遺伝子学的データを含む包括的なゲノム病理データベースを構築して病態を多角的に解析することで、より有効な病理診断手法の開発、腎癌の発症や進行のメカニズムの解明、発症予防、また新たな治療法の開発に貢献することを目的としています。</p> <p>試料は診療で用いた後に保管されている余剰分を用いるため、新たな採取は行いません。また、上記のゲノム解析研究等の中で既に病理解析、ゲノム解析の他、蛋白質の異常との関係を解析する転写解析や蛋白質解析が行われている場合には、その情報を用います。</p>
研究の方法	<p>腎癌の診療時に、患者さんの手術や生検、採血で取られた検体の一部(試料)や電子カルテに保存されている臨床情報を用います。また、既にゲノム解析・転写解析が行われている場合には、その情報を用います。試料は診療で用いた後に保管されている余剰分を用いるため、新たな採取は行いません。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行ったうえで共同研究機関や解析委託機関と試料やデータのやりとりを行います。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。試料・情報等は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従って、所定の場所に施錠して保存・管理されます。</p> <p>本研究の終了後に残った試料等は、将来の研究のための資源として保存します。研究試料・情報は非常に貴重であり公共の福祉向上のために、共同研究者間で共同利用することや、公的な機関(厚生労働省、国立大学、がんセンター等)に提供する場合があります。また、本研究で得られたデータは、公衆衛生の向上に貢献する他の研究を行う上でも重</p>

	<p>要なデータとなるため、データを公的データベース(あるいは:科学技術振興機構バイオサイエンスデータベースセンター(NBDC)が運用するデータベース)に登録し、国内外の多くの研究者と共有する場合があります。なお、このようにデータを二次利用する場合には、改めてその研究計画を新潟大学遺伝子倫理審査委員会において審査し、データ類の扱いも含め、適切な研究計画であるかどうか評価がなされて、必ず学長の承認を得て、初めて実施されます。また、二次利用の内容について当大学のホームページで情報を公開します。このような確認の過程を経ず、勝手に二次利用されることはありません。</p>
個人情報の取扱い	<p>本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。</p>
個人情報開示に係る手続き	<p>個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。</p>
資料の閲覧について	<p>ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。</p>
問い合わせ窓口	<p>聖隷浜松病院 病理診断科 大月寛郎 TEL:053-474-2222(代表) 9:00~17:00 平日</p>